

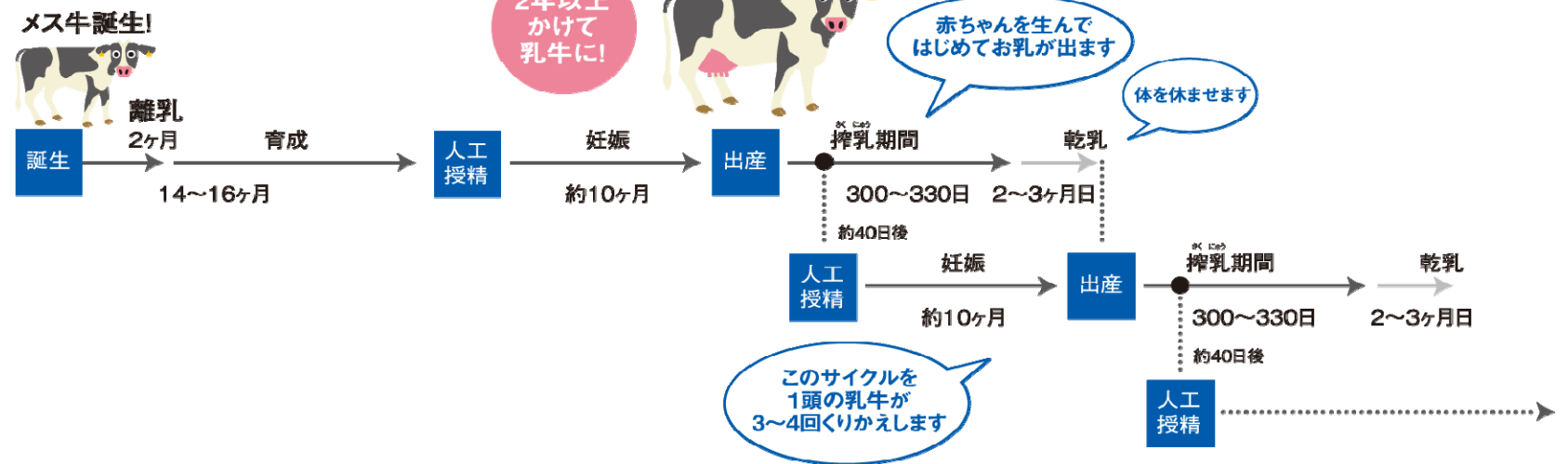
かながわ畜産まめ知識

牛の乳が出る仕組み

子牛を産むことが必要

牛の乳はもともと子牛を育てるためのものですが、子牛が必要とする量よりもたくさん出るため、人が牛をさらに改良し、より多くの人々が飲めるようになりました。しかし、乳用牛が乳を出すためには、まず子牛を産まなくてはなりません。子牛を産まない乳用牛はいくら成長しても乳を出しません。

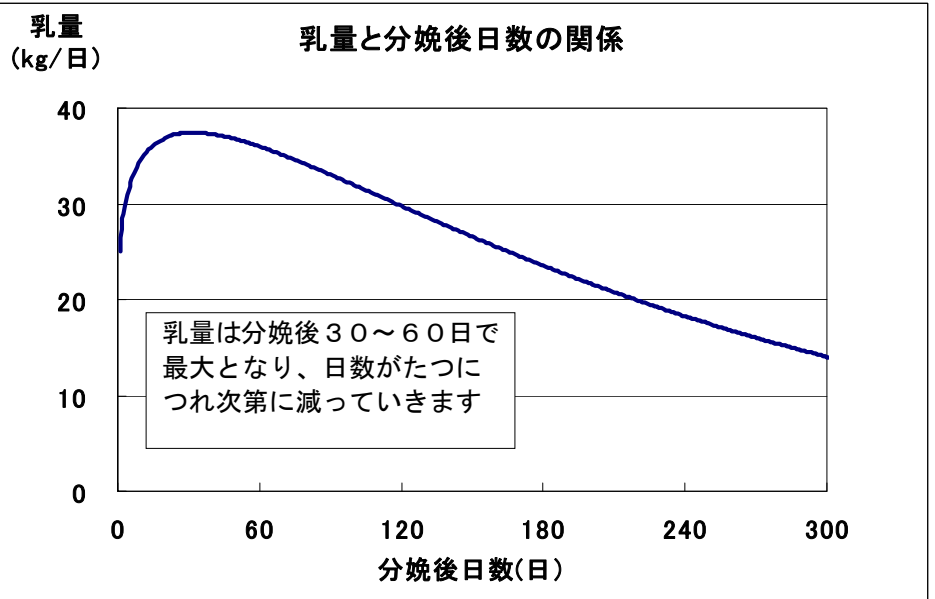
子牛から乳牛になるまで



乳用牛の乳量

県内の多くの農場では1日2回、朝と夕に搾乳が行われます。1日に生産される乳量は1頭平均20~30kgですが、70kgくらいの乳を生産する牛もいれば、数kgの牛もいます。

また、分娩から日数がたつにつれ次第に乳量が減っていくため、前述したように分娩前2ヶ月ほどで搾乳を休み、次の出産に備えます。



搾乳

搾乳は、牛に不快感をあたえず、手早く衛生的に行うことが大切です。

①搾乳の前には数回の手搾りを行い異常乳がないか検査を行います。これを「前搾り」と呼び、これから搾乳が始まるという合図を牛に送ります。この刺激が泌乳ホルモンの分泌を促し、乳房が張ってきます。

②殺菌剤を浸したタオルなどで4つの乳頭をきれいに拭きとり、「ミルカー」と呼ばれる専用の搾乳機械を使って、子牛が乳を飲むのと同じ原理で乳を搾乳します。搾乳時間は5分前後です。

③搾乳後の乳は「バルククーラー」と呼ばれる農家専用の冷蔵タンクで5℃以下に冷やされ、牛乳工場のミルクタンクローリー車が毎日集めて工場に運びます。

